

常磐毎日新聞

定価一冊五銭 一月五拾五銭 三月一拾五銭 半年二拾五銭 一年四拾五銭
 東京五洲印刷株式会社 印刷
 発行所 常磐毎日新聞社
 社址 福島県平町二丁目
 電話 六三〇
 印刷所 常磐毎日新聞社
 社址 福島県平町二丁目
 電話 六三〇

新人學兒童の取扱方

千葉 右近

【四】
 質素は美德である。服装をはじめその他の持物も思ひ切つて質素にし何物にかゝらず修理し或はつくりかへして使用せしむる。綻びや鈕の紛失も明日と言はず手を下すべきである。
 (ト) 必要品以外の物は持たせぬこと。

入學當初の兒童の學用品は僅に過ぎない、必要外の品物を持ち同じ種類の物でも餘分に持つことは決して良いことではない。
 尙不審と思ふ品物を子供が要求する時は學校へ問合せ見せる必要がある。一方必要品は手拭鼻紙に至るまで毎日決して忘れしめない心様掛けねばならぬ。
 (チ) 所持品には必ず名前をつけ置くこと

新入學兒童の所持品は大概似た物であり皆新しいものである、だから名前が無ければ自他の見さかひなどつけることが出来るものではない。そこで兒童の持つ一切の物には必ず名前を附することを怠つてはならぬ。毎年自分の持物を見失つて

泣く子供が何人かきまつた様にある。
 (リ) 用便を家庭ですまじめること

團體教育では教室が靜肅であること及び一部分のものに教師が手を掛けない様にすることが大切である。子供に用便の良習がないと教授上非常な支障を來たすものである。子供には是非朝家庭ですまして登校する様習慣つきたい。且つ用便の良習は健康上にも必要なことである。
 (ヌ) 必ず遅刻させない様にすること

他の兒童が整列したり教室へ入つてゐたりする時後からそれに加はらねばならぬ子供の苦心努力は容易なものではない。遅刻することにより氣おくれをなす途には學校を嫌ふ様にもなつて來る。
 注意すべきは遅刻せず登校せしむる様最初から習慣づけることが大切である。
 (ル) 成績に就いての注意

學校から携帯した成績物は必ず見てその上整理して長く保存し度と思ふ。
 圖書、手工の成績品を持つて歸した時にはどんな下手なものでも親切にそれを見てやつて更に立派なものを作る様はげましてやるべきで「何だこんな下手なもの」

といつてけなしたり嘲笑したりすれば其次から見せることを嫌ふ様になることは當然である。親に見せたいと思つて歸つて來ても忙い場合「うるさい」といつて受つけないことがある。子供の落膽を思ふべきである教育の秘訣は暗示の應用にあるとも言はれる。
 自分は實に出來が悪いと何

- 明日の献立
- 朝食 味噌汁 大根 小付 納豆
- 昼 ぶろし煮 玉子
- 晩 ポークチャップ 野菜サラダ

かにつけて思ひ出す様に仕向けられては鈍才は低能になつて終ふ。不用意なかりその言葉が子供に取りかへしのかね結果を招くことが往々にしてある。
 親や教師の慎むべきところである。
 教育は國家にとりて眞に百年の大計であり、一家につきて見るも十年、二十年の將來の計である。
 洵に教育は最善の遺産であることを想ひ、入學第一日目から最善の注意と關心とを拂はねばならない。
 【完】

南町成田山新榮講

當講主水津秀次郎過般死去の爲め講務の整理中講中集金も閉却致し各位の御心勞を煩はし候處從前通り四月一日參詣團體出發致すべくに付此段御報告申上候
 三月十九日
 成田山新榮講

玉屋洋品店
 平町田町通電話六五六番

磐城セメント會社特約店

久全屋商店

磐城平町五丁目 電話九・九九

- 良品廉賣に勝る商略なし
- 確實敏捷は久の生命なり

福島縣平町二丁目
 西村屋藥舖
 藥劑師 鈴木堅助
 電話 三番
 振替 東京六・二九九
 仙臺一・二〇一

三月 雛人形陳列

桃の節句が近づきました可愛いお嬢さん方のお祝にはフクダヤの雛人形
 本年の特製品、セツト物 古代人形、童話人形等々
 あらゆる種類を集めましたぜひ御一覽下さい

- 一人物箱入 三十錢 ヨリ
- 二人物箱入 六十錢 ヨリ
- 御殿付内裡 壹圓 ヨリ
- セツト物 百圓迄

其他いくらのでも揃つて居ます
 フクダヤ祝品部
 平二丁目

本社重役和田甚内殿豫て病氣療養中の處藥石効なく三月十七日午前五時逝去致し候に付此の段謹告候也

三月十七日
 福島縣平町
 片倉磐城製糸株式會社

スガノヤの……

三月 ヒナ人形 陳列賣出し
 本年新型人形 オボコ人形 變りヒナ
 小道具類一式 十五人揃セツト
 各種豊富に陳列致しました是非御來店の程お待ちして居ります
 平町四丁目
 スガノヤ提灯店
 電話九五番
 ◎夜十時迄

全國詩吟大會へ

東北代表が出席

仙臺放送局で近く選衡

第二回全國ラヂオ詩吟大會は全國中繼放送で来る四月廿九日(天長節)開催されるため仙臺中央放送局では東北六縣内より選手を募集、四月三日の神武天皇祭當日晝間演藝の時間に放送に依つて東北代表選手の豫選を行ふことになつたが希望者は来る廿五日までに仙臺中央放送局へ住所、姓名、年齢及び詩吟の演題歌詞を名記して申込まれたいと、尚放送出演者は當局の選衡に合格した方に限られてゐる

小名水産

第一回卒業式

縣立小名濱水産試験場併置の小名濱水産講習所第一回卒業式は昨十八日午前十時から知事代理竹内水産課長臨席の下に舉行されたが卒業生は十八名、優等生は左の如く、郡兩水産會からも表彰された

小林判事榮轉

福島 地方裁判所平支部兼平區裁

輝く功績を足して

池袋驛長に榮轉

惜しまれる後藤平驛長

平驛長後藤讓氏は今回の東鐵管内大異動で東京池袋驛長に榮轉明後二十一日後任の千葉縣館山町の鐵道自動車主任山崎花郎氏と事務引繼を行ひ月末赴任の筈であるが後藤驛長は昭和八年三月土浦驛長から平驛に轉任以來三ヶ年間驛務の刷新に努力し東鐵、水戸運輸等の無事故表彰を受けること三回、十年十月には在職三

ある

△平驛長後藤讓池袋驛長に後任安房館山町鐵道自動車主任山崎花郎
△平運轉係岡田平太郎永郡線近津驛長に
△平檢車主任元吉尚繁東横濱檢車主任に後任尾久檢車田端分所田村濱吉
△小川郷驛長大高重器水戸運輸庶務係に後任川尻驛長酒井浩

漁村産組救済に

水産物取扱要請

石城産組で農倉法を 縣支部と共に改正高唱

郡内漁村産業組合救済のため石城産業組合聯合會では這般縣に對し農倉庫の取扱品目中に水産物及水産加工品を加へ金融の道を拓いて欲しいと陳情したが縣支部の意向も全く同感である廿四、五日東京市に開かれる産業組合大會に農倉庫法の改正を高唱、目的貫徹に努める方針に決定した

關田小學校

落成式

廿五日舉行

勿來町關田小學校新築落成式は来る廿五日午前十時か

明日締切の磐中

昨年と大差ない

平商も案外妙い模様

今十九日正午の磐中、平商兩中等學校の入学願書

地方事情

飯野村箱調查委員 崎才三郎氏並に江名濱町太清左衛門氏は縣の推薦に依り農林省直屬の地方情勢調査機關たる農山漁村地方事情調査委員に任命された
右は夫々定期的に各地方農山漁村の經濟的動向を農林省に通報する重要な役割を果たすものである

物故職員のお墓詣り

彼岸の平第一校

平第一小學校では彼岸に入つた今十九日午後二時より例の如く職員及び校長が四班に別れ左記物故職員のお墓前に線香、花束を供し慰靈した

性源寺(矢野弘平、大須賀百世)大寶寺(引地淳四郎、加藤鐵雄)長源寺(武川教義)大林寺(橋本喜高、永山光吉)

受付數左の如し、尙磐中は明廿日を以て切れるが大体昨年の應募數三百八十六名と大差ないものと見られてゐる
磐中 三百六十五名
平商 百六十七名
多田井町議が 縣青年副團長
昨日の代議員會で決定
平町大工町議多田井笑次郎氏は昨十八日の縣聯合青

友 柴田書店
各種全類書籍 各種全類書籍 豊富に取揃へました
中等教科書 國定教科書
小學生用 小學生用 小學生用
カバン、手提類

石城産看學校 卒業式 明廿日舉行
平町才植小路石城産科婦看護婦學校卒業式は明廿日午後一時から同校で舉行されるが卒業生左の通り
産婆科(○は看護科兼修)
○石井キミヨ ○伊藤ハルヨ ○箱崎キエ 戸田

チヨ ○富岡フミ 富田 シズエ ○大竹ギン ○渡邊君子 ○渡邊良 ○菅野ヨシミ ○吉田八千代 ○吉田マサノ ○吉田秀子 ○吉田キクヨ ○丹野キミヨ 根本トヨ ○田原チエ子 高崎ユキ 宗川ミチ 草野シズエ 鯨岡ウメ ○草野房子 ○草野春子 ○山野千代 松本壽美枝 ○小磯ハマ ○松崎ノブ子 ○船生芳子 ○手塚ヨネ ○安齋タケヨ ○酒井ハナ ○木村ノブ 木田ハルヨ 木田初枝 志賀ヤシロ柴野シゲ 馬上シモ
◇看護科 早川末子 戸田チエ 村田淑子 國玉キヨ子 草野タカ 松本壽美子 古市ノブ 湯澤

お彼岸會議で 佛様のおつしやる事には、うまいと安いと 買物ならマヌヤに限る
線香、小豆、砂糖其の他 干物雜貨：なら何んでも
長橋町性源寺筋向(電話一七四) マヌヤ雜貨店 蛭田利光

吉田眼科醫院 平紺屋町 電話六八番 吉田久雄

眞面目な青年だ

實は強盜殺人犯

仲之作で逮捕さる

妻への手紙で足が付く

雇主人はあ然

眞面目な青年だと世話されて使つた男が恐しい強盜殺人犯だつた話——江名町字仲之作角石榨油工場吉田長八さん方へ本月一月同業作山平三郎さんから非常によく働くと將來船頭の希望を持つて居るからと世話された井上寛次郎事青森縣三戸郡川内村桐谷内権六四男川崎繁次郎(ニ)を雇入れた處去る十七日夜突然茨城縣警察部八代警部補、岡田巡查部長と應援の平署員が踏み込んで川崎を強盜殺人犯人として檢舉、直に茨城縣石岡署に引致したが假面を被つて雇主を誤魔化した川崎

は昨年十月七日夜茨城縣高濱町中津川霞浦畔の煙草屋松本タケ(ハ)方を襲ひ九圓餘在中の財布を強奪した上同人を殺害して逃走、昨年十一月乞食風となつて江名町に流れ込み言葉巧みに同町字長崎作山方に雇はれ一倍眞面目に働いたのでスツカリ信用を受け更に同業者吉田長八方へ世話され近く船頭になると云ふ一步手前で岩手縣高崎村に居る内妻田代さつみに出した手紙から足が付き事件後半振りて逮捕されたもので同人をスツカリ信用して居た二人の雇主は呆然として居る

監視中 精神病者 列車に飛び込み自殺

昨夕内郷堀坂地内で

十八日午後六時十二分頃上野發下り貨物列車が湯本線間の堀坂地内進行中同貨車の機関部が飛び込み自殺を遂げた三十才位の男があつたが身元調査の結果内郷村大字綴字堀坂一八居住野菜行商人鈴木福藏(ニ)と判明、原因は不明であるが同人は一週間程前から精神に異常を呈して居り監視中の者であつた

昨年度の二百五十圓より三圓の格安となつたため申込殺到を豫想されたが本十日に到つて亦々使用料八十二圓が七十四圓に、登記料十圓が五圓に、名義書替料四圓が三圓、番號簿掲載料が十圓から八圓に減額され設備費も百八十圓に値下

郡内三等局 平郵便 電話特設料 局管内 湯本、植田、小名濱、江名四倉、豊間、勿來、泉、綴草野各交換局の本年度特設電話は四月一日から十五日迄受付けるが料金は各局共に昨年より三十圓安く特設料は百二十圓登記料は五圓である

復湯問題 益々悪化 湯本町第二回温泉復活反對の町民大會は廿日午後六時から同町三函座で飽くまでも反對を期して開催されることになつたが一方愛湯會委員側は「當局の復湯は正當なるものなり」として十八日聲明書を配布した

男女工見習 右至急募集す 希望者來談あれ 常磐毎日印刷會社 長橋町 電話六三〇

市原醫院 平町・四町 電話一四四番

炭礦地帯を根城に

片ツ端から盗み廻り

平署の網にコロリ這入る

十八日夜十一時頃平署前を徘徊する舉動不審の男を平署員が本署に連行取調べる

と右は田村郡三春町權現堂生れ當時住所不定窃盜科六犯川前國之助(ニ)である

小名の女保護 二本松町字本町惠美壽屋旅館に十七日夜投宿した妙齡の女

之は安い 昨年より六十圓安 平郵便局の十一年度電話特別開通申請は四月一日から十五日まで受付けるが曩に本年度は設備費二百十圓、登記料十圓計二百二十圓で

怒つた時の氏神 手斧で頭を割る 近く平支部で公判開廷

復湯問題 益々悪化 湯本町第二回温泉復活反對の町民大會は廿日午後六時から同町三函座で飽くまでも反對を期して開催されることになつたが一方愛湯會委員側は「當局の復湯は正當なるものなり」として十八日聲明書を配布した

市原醫院 平町・四町 電話一四四番



明日のラジオ

今晚の部
後六、〇〇 子供の時間 讀佛歌 青葉兒童學園
後六、二五 農家の時間 「合理的肥料の使ひ方」川崎一郎
後七、三〇 講演「統制經濟の話」土方成美
後八、〇〇 民謡組曲「春」三浦静子他(桃谷演奏所)
後八、二〇 清元「今様須磨の寫繪」清元巴榮太夫
後八、五〇 南部坂寺坂の注進「春日井梅鶯」
後九、三〇 時報 ニューズ 明日話題 番組豫告 氣象通報

明日の部
前七、一〇 現代語講座「新らしい新聞語」藤田進一郎
前七、三〇 朝の修養「三指歸」吉祥真雄
前八、〇〇 母の講座「家庭に於ける子供の指導」丸山丈作
後八、〇〇 漫談「卒業前とあと」西村小樂天
後八、一〇 善光寺御開帳實況 信州善光寺中繼
後九、〇〇 婦人の時間「家庭と法律」片山通夫

頃際で行きつけの賭場内郷村宮平太郎吉田幸作(ハ)方を訪ねたところ居合せた同村農飯島長三郎と小名濱町魚行商渡邊大吉(ニ)が口論の末組打となつたのを仲裁に入つた際「生意氣な」と計り渡邊に散々毆打されたのでかつとなり三丁程ある自宅へ戻り斧を携へて戻り矢庭に頭部に一撃を與へ同人に全治五週間の重傷を負はしたものである

給料面談
▽コック見習 廿才迄 尋卒 月給五圓
△漁夫 五十才迄 月給卅圓
△農夫 廿五才迄 給八圓
回職を求める方
△電工 廿三才 高卒
△自動車助手 廿才 高卒
△小守 十一才 尋修
△洋服裁縫 卅六才 尋卒



続る瓦解の令

(著上 映上)
丸尾 至 陽 (著)

七六 誰ケ袖の賭場

小倉庵長兵衛はお花の酌で一口飲みズイと膝を進めて青木彌太郎に向ひ

長「ねえ殿様、今お話ししました通り誰ケ袖にはそれは大した賭場が出来て居ります、それへ押して行けば千兩や二千兩はきつとつかめませんが何うですか、それへ出馬しますか」

青「ウーム、俺もかね、札差共が寄り合つて大バクチを打つとは聞いてゐた、よし誰ケ袖へ押しかけて彼等に一泡吹かしてやる」

長「しかし青木と名乗を上げて遊びに行つたところで仲間には入れますまい、相手は札差だ、あなたの顔を知つて居りますから」

青「さうだのう、現場へ踏み込まねば金をさらふことも出来ねえがこうしてくれ

貴様はいつもの通り遊びに行き、たしがに大勢あつまつて賭場を開いてゐることを知らしてくれ」

長「そいつはチト悪です、ね根岸まで知らせに来るうちには皆散つてしまふかも知れません」

青「こゝまで知らせるとは云はぬ俺が誰ケ袖に参つ

居る」

長「それならば都合はようございませうが、夜はしまりを嚴重にして馴染の客でなければ入れねえやうにしてありますから」



青「それでは晝の内より参つて居る」

長「そいつもまづいね、用もないのに旦那が晝間から来て居れば怪しい奴と誰ケ袖で気がついて、旦那方へ沙汰をすれば一人も出ては来ますまい」

青「イヤそこだ、このお花を先にやつて俺は悠々と出かける、どうせ札差共のあつまるは夜であらう、そのあつまつた潮時を俺に知らせろ、知らせるには雪隠の壁か及羽目板に紙へ圖を書いてはつて置け」

長「それではさういふことにいたしませうが、今夜お出になりますか」

青「支度があるから明日にいたさう」

長「ではお待ち申して居ります、お花さんお前さんも明日は腕を貸しておくんない」

さい。立女形が出けなれば舞臺が賑やかにならぬ」

長次郎はしめし合せて歸り、翌日は夕方から誰ケ袖に行き奥二階で札差のあつまるのを待ち受ける。するとその日の八時頃(今の午後二時頃)誰ケ袖へ来た年

頃廿三四になる女、小紋縮緬の袖に縞の帯、髪は丸髷に取り上げ廿六七になる供が一人ついてゐる。供は松坂木綿の袷に小倉の帯、極く堅い扮装、女中は女「何卒こちらへ」

と二階へ通した、女は徐に敷物に座り

女「観音様へお詣りに参りました、今日は少し待合せの人かありましてお邪魔をいたします」

女「御最負に有難うございませう、今日は風も吹きませんでお詣りをなさるには結構なお日和でございます」

女中はお世辭を云ひながらこの客をデツと見ました、品の好い中に何處か粹なところがある、御用達の御内儀さんでもあるかと思つてゐた、結構なお茶に干菓子添へて持つて来ていろ／＼浮世話をしてゐる内に豆腐屋の賣聲が聞えもう七ツ近くなつた。

女中「まだお連れのかたはお見えになりませんがお迎ひを出しませうか」

女「イエエむかひを出すには及びません、此方へ来ることになつて居りますから」

女中「左様でございますか、お一人で御退屈でございますか」

女「さうですね、何ぞうまい物を取つて下さいな、それから供の者にも」

女中「ハイ長まりました」

三つ物で酒が出た、供は梯子段の下で御馳走になつてゐる、その内に日は暮れた、すると門口へあなぼつ

が一挺下り、紺看板を着た駒昇が雪駄を直すと引戸をあけてそれへ出て来たは卅四五になる色の白い丈の高立派な男、藍万筋の唐糸の袷に黒羽二重の羽織、茶献上の帯、腰には蠟色鞘の脇差をさしてゐる、先づ幕府の御用達とでもいふ扮装

耳鼻咽喉科専門

平田町(電話六九一番)

山内醫院

醫學士 山内亨 吉

病室完備 自炊便有

干やなぎ

味美 鯉鹽から

当店特製

鯉節

魚問屋

商榮盛賀志

(三一二電) 目丁四町平

産婦人科 院長 木村寅次郎

外科 醫學博士 内木宗八

藥局 藥劑士 大岩俊雄

平町新川町十九

病室完備 入院隨意

木村病院

電話一六四番

花環 神佛葬具

盛花

久壽玉

御弔燈

寶明燈

造花

靈柩自動車

平新橋 川本屋

三六一電

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社

電話一〇番